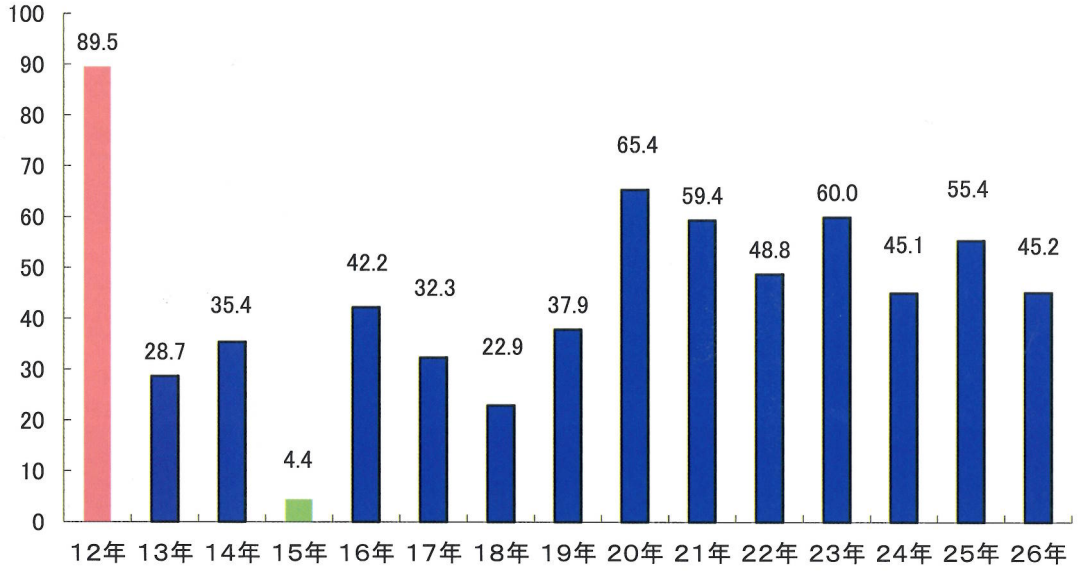


年毎のふ化率の推移

C-7　銚子周辺におけるウミガメの観察事例

Ovservation of sea turtle in Choshi Region

○宮内 幸雄（銚子海洋研究所）

C-8　千葉県におけるウミガメ類ストランディング状況

Stranding tendency of sea turtle species in Chiba prefecture

○田中 真一・井ノ口 栄美・菅沼 弘行（ELNA）

認定NPO法人エバーラスティング・ネイチャーでは、2003年より関東沿岸域を中心にウミガメ類のストランディング調査を実施している。実際に漂着現場に赴き、剖検を実施した個体数は延べ1,200頭を超え（混獲個体含む）、そのうちの約70%が千葉県で確認された個体となっている。千葉県はウミガメ類ストランディングが非常に多く確認される地域であり、そうした状況について過去13年間のデータに基づき発表する。

C-9 ウミガメと生きる―近代漁業の展開と「亀の墓」―

Living with sea turtle –Expansion of modern fishery and ‘sea turtle grave’ -

○小島 孝夫（成城大学文芸学部）

ウミガメに関する代表的な漁撈習俗として、カメノマクラに対する信仰が和歌山県、静岡県、千葉県などにみられる。高知県ではカメノカブリギ、徳島県ではカメノウキギなどとも呼ばれている。洋上でウミガメが甲羅干しや休息をとるために洋上で漂流物に体をあずけているのを見つけると、漁民たちは代替物を海面に投げ込み、ウミガメが接していた木片などを大漁や幸運をもたらしてくれる呪物として祀るというものである。自然界のウミガメをエビス視した習俗と捉えることができる。一方、石塔をともなうウミガメの埋葬習俗もまた、全国的に分布している。千葉県銚子市域には、2005年時点で社寺などの9地点に合計55基のウミガメの墓が存在し、全国でも最も高密度に墓が建立されている。なかでも利根川河口に位置する川口神社には林立するように石塔が建立されている。川口神社において明確に亀の墓とわかる最古の石塔は明治37（1904）年のもので、最新のものは昭和62（1987）に建立されている。

石塔には「海亀之霊」などの表題、(建立)年月日、建立者名(船名)を刻んでおり、そのウミガメを祀っている人物や船主が周囲にわかるように明示している。これらの石塔が建立された背景には、明治期に展開した漁船の動力化や漁法の機械化により発生したウミガメの混獲という現象があった。動力化や機械化による漁業の効率化が、漁民たちが海神の使いとして敬っていたウミガメを混獲によって殺してしまうということを引き起こしたのである。石塔の建立はそれらのウミガメを供養するためだけのものではない。自然界で棲息している信仰の対象であるウミガメを殺してしまったことは、当該漁民にとってはウミガメを私物化することになり、そのウミガメを供養することで当該漁民の守護神としてともに生きる存在となるという観念を創出していったのである。そして、こうした観念が銚子市域の漁民間で共有されていった背景には、漁船が遠洋に航海できるようになったことで生じたウミガメの祟りに関する伝承が存在するのである。

川口神社境内に建立された石塔群(左)とそのうち最新の石塔(右)

C-10　一宮海岸のウミガメの孵化と温度の関係

Relationship between turtle hatching and temperature at Ichinomiya coast

○齋藤 あやね・飯田 さくら・岡本 優香 (一宮中学校・一宮ウミガメを見守る会)

「お母さんガメに会いたいな。」という思いから始まった私のウミガメ研究は、今年で7年目になります。今年はお友達と3人で研究しました。 お母さんガメがたくさん産卵にきて、子ガメもたくさん孵化してほしいな。と思い、今年は「子ガメの孵化と巣の中の温度の関係」について調べました。

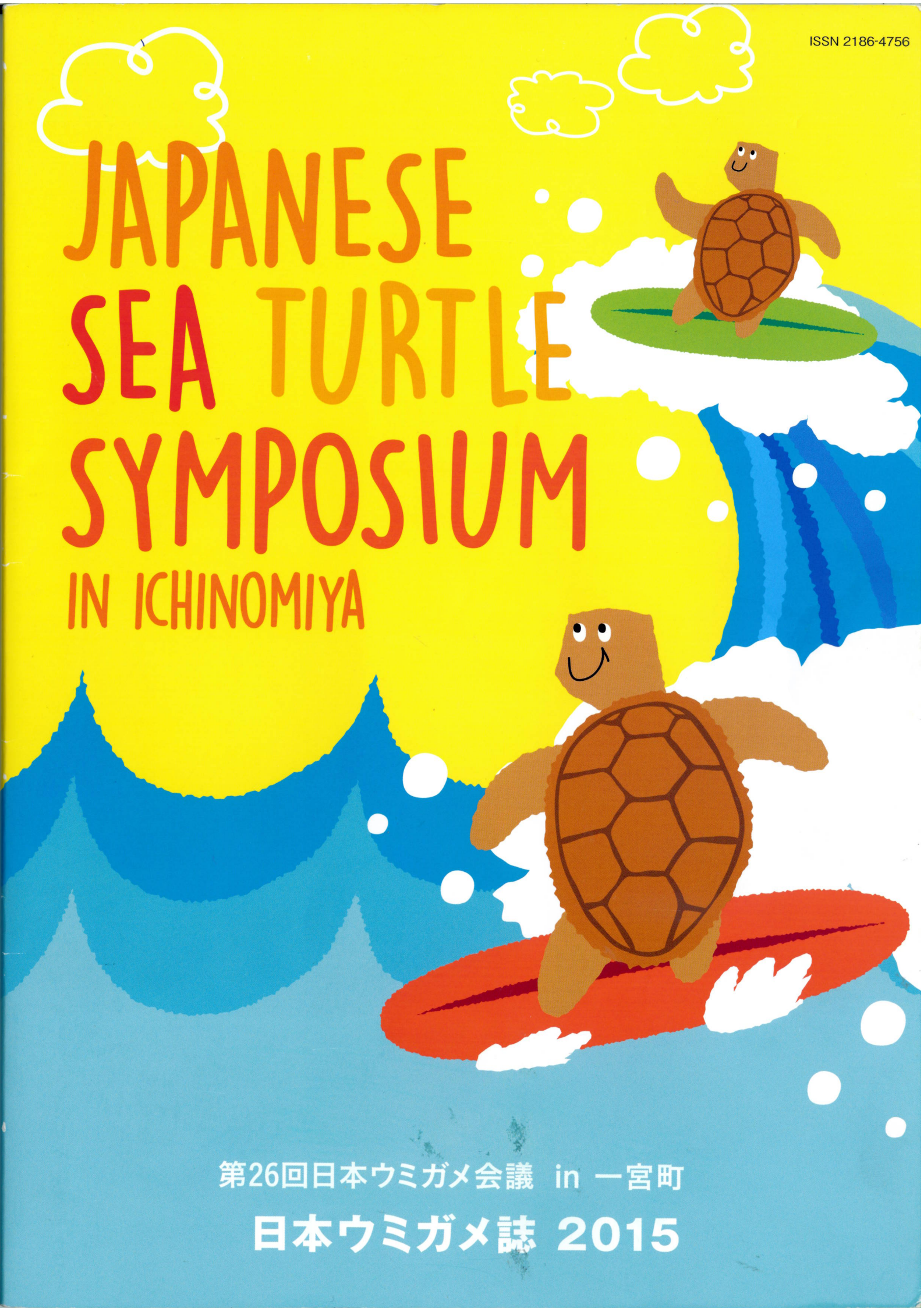
方法として、1、産卵した巣の温度について調べ、子ガメの孵化について考える。2、千葉県内の砂浜の砂を採取し、砂鉄分を調べる。3、一宮海岸の砂鉄分と巣の中の温まり方について考えました。

分かったことは、1、一宮海岸の砂は砂鉄分が多く、子ガメの孵化に適していると考えられる。2、砂鉄分の多い巣の方が早く子ガメが孵化する。3、一宮海岸では巣の中の平均温度が27.1℃で、平均より早い50日で孵化した巣がある。4、子ガメの孵化は、巣の中の温度だけではなく、天候にも大きく左右され、また、巣の高さや巣の中の湿り気、砂の性質等たくさんのことが関係している。

これからもウミガメがたくさん来る一宮海岸になるように、私達にできることを考えていきたいです。

ISSN 2186-4756

JAPANESE SEA TURTLE SYMPOSIUM IN ICHINOMIYA



第26回日本ウミガメ会議 in 一宮町

日本ウミガメ誌 2015